

COMPUTEX 2023 先取りセミナー開催のご案内

Creating Tomorrow !

日本 - 台湾最先端技術とアプリケーション

デジタル技術の進展により、世界中で様々なイノベーションが生まれています。そのイノベーションを実現する半導体や電子部品、ソフトウェアなどの分野において、台湾と日本は世界でも高い技術力を有しています。

中華民国対外貿易発展協会 (TAITRA) は、ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)、メタバース、スマートモビリティなどの注目アプリケーションにおいて、台湾と日本が誇る最新技術を紹介するセミナーを企画しました。

2023年5月30日から6月2日の期間、台北でアジア最大のICT展示会「COMPUTEX 2023」が開催されます。2022年に引き続きリアルで開催される同展は、HPC、スマートな未来、次世代通信、仮想現実、イノベーション&スタートアップ、サステナビリティを主要なテーマとしています。同展では新時代のイノベーションを切り開く最先端のICTソリューションを見ることができるでしょう。

COMPUTEXを主催するTAITRAは、同展に先立ち本セミナーを開催。デジタルテクノロジーの将来の発展について皆様と知見を共有するとともに、台湾と日本のICTエコシステムをつなぐプラットフォームが構築できることを期待しています。

- **開催日時**：2023年 3月29日 (水) 14:00～16:00 (受付13:30-14:00)
- **主 催**：中華民国対外貿易発展協会 (TAITRA) <https://www.taitra.org.tw>
- **運 営**：株式会社電波新聞社 <https://dempa.co.jp/>
- **開催形式**：リアル 現場で開催
- **参加費**：無料
- **募集人員**：60名
- **開催会場**：ビジョンセンター品川 2F (201号室)
セミナー会場への地図URL https://www.visioncenter.jp/shinagawa/download/d_route.pdf
〒108-0074 東京都港区高輪4-10-8 京急第7ビル 2F/3F
【アクセス】JR各線・京急本線「品川駅(高輪口)」徒歩3分
- **お申込み**：お申込みはこちらから <https://forms.office.com/r/ktrkuxe1Hw>
電波新聞社イベントチーム 日台最新技術セミナー事務局
Tel. 03-3445-6131



*TAITRAは台湾の非営利公的貿易促進団体です

プログラム

時間	テーマ	登壇者
13:30-14:00	受付	
14:00-14:20	開会挨拶 次世代台湾 ICT 産業と日本との連携 台湾の技術産業は、生産能力と研究開発力を強みとし、なかでも半導体産業は最もよく知られています。近年は、IoT、AI、およびグリーンテックなどの新興技術産業もめざましい進歩を遂げています。また、産業の改善と変革に熱心に取り組んでおり、特にグリーンエネルギーやバイオテクノロジーなどの新たな分野に力を入れています。国際的な競争力を高めている台湾のテクノロジー業界を紹介します。	台湾貿易センター東京事務所 所長 鄧 之誠 氏
14:20-14:25	Q&A	
14:25-14:50	未来の AI を構築する コンピューティングシステムとは AIを成功に導くためには、AIを開発、実行するハードウェアの選択が重要です。AIにおいて業界トップクラスのハードウェア事例と経験を誇る米国のSuper Microから、AI環境で必要になるハードウェアと増大する消費電力や発熱量と、相反するグリーンITとの関わりも交えて話します。	Super Micro Computer, Inc. テクニカル マーケティングディレクター 矢部 充 氏
14:50-14:55	Q&A	
14:55-15:20	XR (クロスリアリティ) の 現状と今後の展開 NTTコネクチュアは「XR上で行われる3D技術を活用したコミュニケーションを推進する」を目的に、2022年10月1日に事業を開始しました。主要な事業は、メタバース事業・デジタルツイン事業・XRデバイス事業です。バーチャルのアバターを介した体験やコミュニケーションの提供や仮想世界との相互作用による新たな価値提供を目指しています。本講演では、メタバースやデジタルツインのビジネストレンドに加え、XRデバイスの世界市場の動向や最新技術の動向、XRデバイスがもたらす未来について話します。	株式会社NTTコネクチュア 代表取締役社長 丸山 誠治 氏
15:20-15:25	Q&A	
15:25-15:50	自動運転の開発と運用ニーズに答える TIER IVの Autowareソリューション TIER IVでは、オープンソースの自動運転ソフトウェアであるAutowareの開発をOSSの管理団体であるAutoware Foundationと共に行っております。これによりAutowareは世界中誰でも自由に利用できるオープンソースソフトウェアとなっていますが、TIER IVではこのオープン性を生かしながら「自動運転の開発と運用における課題」を解決するための様々なソリューションの開発も行っています。今回はこの適用例としてEveautonomy社のEve Autoに対する事例を中心に紹介します。	株式会社ティアフォー (TIER IV) フェロー 安藤 俊秀 氏
15:50-15:55	Q&A	
16:00	閉会	